

## デスティネーションキャンペーン(DC)ともう一つの「観光」、ダークツーリズムのススメ◆◆◆◆

高木 亨氏

福島大学うつくしまふくしま未来支援センター(FURE)  
特任准教授

**福** 島県では、JRの大型観光キャンペーンであるふくしまデスティネーションキャンペーン(Destination Campaign: DC)が2015年4月1日に開幕しました。ちょうど県内は花が咲き乱れ、多くの方々に楽しんでいただけていることと思います。福島県は大きく三つの地域(浜通り・中通り・会津)に分かれていて、海あり山あり盆地あり。気候も地域によって異なるため、花の季節も長いのが特徴です。拙文が掲載されるころは、桜の季節が終わっているかもしれません。そんな時は福島市にある花見山へお出掛けください。篤志家が個人でコツコツ作り上げた花の山です。いつ出掛けても何かしらの花が咲いています。首都圏の雑踏に比べると、ゆっくりと散策できるかもしれません。

さて、DCで福島県を訪れた時、ぜひ原子力災害の被害地域を訪れてみてください。「ダークツーリズム」という言葉をご存じでしょうか。日本語では良い言葉としてとらえられていないようですが、その中身は、戦争や公害・災害などの被害を受けた場所を訪れ、犠牲者の冥福を祈り、被害者に思いを寄せ、教訓を得るという「学びの旅」です。原子力災害被災地では、語り部ガイドのついた学びのツアーが開催されていますので、参加されるのも良いと思います。時間のない方は、レンタカーを借りて、東京電力福島第一原子力発電所近くを通り抜けるだけでも、十



国道6号大熊町付近の様子(2014年9月16日撮影)

分ダークツーリズムの実践になると思います。

「原発の近くを通り抜けるの？」

という方もいるかと思いますが。第一原発の横を抜ける国道6号は、2014年9月15日から一般車の通行が認め

られるようになりました。また、今年(2015年)の3月1日には、常磐自動車道が全線開通しました。一部、高線量の場所もありますが、通過するだけでしたらさほど問題はありません。

モデルコースは、いわき駅でレンタカーを借り、国道6号を北上、浪江町か南相馬市小高区まで行き、常磐自動車道でいわきに戻るルートです。富岡町から先、浪江町までは、休憩する場所がない上に駐車車が禁じられているので、注意が必要です。人の出入りがなくなった大型店が建ち並ぶ富岡町を抜けると、最後まで一般の立ち入りが制限された地帯(原子力災害により生まれたアネクメネ：人の居住が困難な地域)に入っていきます。途中、大熊町の市街地は、建物の入り口に配置されたバリケードが目を引きます。双葉町近くになると第一原発の姿が見えるかもしれません。浪江町に入ると、日中、関係者が立ち入れる区域(南相馬市小高区まで)となり、また雰囲気が変わります。

これらの地域は、東京電力の原子力発電所が事故を起こしたことで、そこにあった「暮らし」が奪われた場所です。その姿を直接見て感じられる貴重な地域となりました。被害地域は除染が進んでいるほか、中間貯蔵施設建設などにより、日々大きく変化していきます。今ある姿はその時でしか見られないものです。DCをきっかけに、福島の原子力災害について触れてみてはいかがでしょうか。